

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年11月分）

### 【製造業】

- 製造業は、9月の鉱工業生産指数は前月比11.6%上昇となった。ヒアリングでは、価格転嫁がある程度認められており、売上・利益とも回復傾向にあるとの声や、生産回復により、生産能力を上回る出荷水準に達しているとの声が聞かれた一方で、依然として価格転嫁が不十分で利益を圧迫しているとの声や、中国や欧州の景気減速により受注が大幅に減少しており、今後の見通しが全く立たないとの声も聞かれた。

### 【地場産業】

- 地場産業は、9月の鉱工業生産指数は、窯業・土石、家具、繊維工業、パルプ・紙、木材・木製品で低下した。ヒアリングでは、原材料価格の上昇分は価格転嫁できている一方で、労務費の上昇分は価格転嫁できないとの声や、値上げによる買い控えを懸念し、価格転嫁は実施せず、内容を調整しているとの声、物価高や巣ごもり需要の反動などにより、売上が減少傾向にあるとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

- 設備投資は、10月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲20.6%となった。ヒアリングでは、事業再構築や生産性向上を図るため、新規設備を導入したとの声が聞かれた一方で、設備導入意欲はあるが、投資を行う余裕がないとの声や、人手不足への対応や、耐用年数到来によるやむを得ない設備投資がみられるようになってきたとの声も聞かれた。

### 【個人消費】

- 個人消費は、10月の販売額は、ドラッグストア及びコンビニで前年同月比で上昇し、全体で同0.6%上昇となった。ヒアリングでは、生鮮食品スーパーの売上が好調との声が聞かれた一方で、物価高による購買意欲低下で消費者の買い控えが続いているため即座に価格転嫁できず、利益を圧迫しているとの声が聞かれた。

### 【観光】

- 観光は、10月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲5.8%、▲11.7%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンドが好調との声が聞かれた一方で、物価高騰により経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しているとの声が聞かれた。

### 【資金繰り】

- 企業の資金繰りは、10月の制度融資実績は、9ヶ月連続で金額が増加した。金融機関からは、ゼロゼロ融資を繰上げ償還する事業者は少なく、約定返済や借換え対応する事業者の割合が多いとの声や、増産などに対応する前向きな運転資金需要が減少し、経営環境悪化による運転資金の申し出が増えているとの声、更には、長引く物価高騰により経営が悪化する事業者や倒産が目立つようになってきたとの声が聞かれた。

### 【雇用】

- 雇用面は、10月の有効求人倍率は1.59倍と25ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、人手不足の中、増産に対応するために非常に苦慮しているとの声や、コロナ禍で人員を減らした観光業などの非製造業の業績回復が目覚ましく、人手不足が顕著となっているとの声、従業員の高齢化が進んでおり、今後の人材確保が深刻な課題であるとの声が聞かれた。

### 【景気動向】

9月の景気動向指数（一致指数）は前月比3.1ポイント上昇、10月の中小企業の景況感と同▲7ポイントとなった。